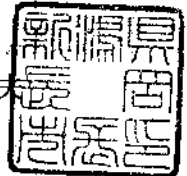


長土政第 173-1 号  
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

長岡市長 森 民 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

日ごろ、長岡市の道路行政に対し特段の御配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありましたことについて、別紙のとおり要望・提案いたします。

〒940-8501

新潟県長岡市幸町 2 丁目 1 番 1 号

長岡市土木部土木政策調整課企画係

担当：水澤

電話：0258-39-2307（直通）

FAX：0258-39-2273

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

新潟県長岡市

地方自治体を取り巻く状況は、人口減少や少子高齢化が進行し、地方分権や行財政改革を前提とした協働型社会の実現が求められ、さらに、地球規模での環境問題、市民ニーズの多様化などの社会変化への対応など、さまざまな課題を抱えています。

それぞれの自治体において、現状やさまざまな課題を認識し、総合的かつ計画的にまちづくりを進めております。

このような状況の中、近年多発する大災害により中山間地域で多数の集落が孤立するなど、中越大震災を経験した当市のみならず、全国の自治体において道路の必要性和重要性を痛感しています。

特に、災害時に威力を発揮する広域幹線道路のネットワーク化、日常的な交通渋滞箇所の解消など、真に整備が必要とされる道路は多数残されており、これを着実に完成させてゆく必要があります。

また、一定水準の道路整備が完了した市街地においても、沿道居住者から道路のサービス向上が強く求められたり、道路の不陸箇所に起因する振動や騒音(衝撃音)改善を求める声への対応が必要となっております。

一方で、少子高齢化社会により、高齢者や身体障害者等の誰でも歩きやすい快適な歩行空間整備の需要はいつそう高まっており、増加する高齢者の運転特性に配慮した道路設計などの安全対策も必要となっております。

また、当市も含め、豪雪に見舞われる中山間地を抱える地域においては、冬期における生活道路の確保など多くの課題も抱えており、「安全で安心な地域を支える道路」が望まれております。

今後の道路政策においては、真に必要な道路整備を継続するとともに、バリアフリー化など既存ストックの機能強化によるサービスレベルの向上や、適正な維持管理によるサービスレベルの維持に努める必要があると考えます。

こうした中で、道路特定財源の問題では、4月30日と5月13日の道路特定財源関連法案再可決により、地方における今年度予算に対する影響は最小限にとどまることになりましたが、政府の閣議決定においては、道路特定財源を平成21年度から一般財源化することとされました。

地方では、厳しい財政状況のもと、道路整備の必要性から道路予算に一般財源などを充当し、地域の将来像を目指している状況であります。

つきましては、地方の道路整備状況の実態に配慮した、「地方の住民が安全で安心して暮らしていくための道路整備や維持・補修に支障が生じないよう地方に必要な道路予算の確保」、「地方の目指す将来像の実現に向けた一般財源化の制度設計」に特段の配慮を、強く要望いたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

新潟県長岡市

○現状

長岡市は、新潟県のほぼ中央に位置し、平成17年4月1日と平成18年1月1日の2度にわたる市町村合併で面積約840km<sup>2</sup>、人口約28万3千人となった中越地域の中心都市であり、市の中央部を、日本一の長さ水量を誇る信濃川が縦断し、その両岸に肥沃な沖積平野が広がり、東の守門岳から日本海に至る変化に富んだ地勢が特徴的であり、豊かな自然環境が強みとなっている。平成19年3月に、長岡市総合計画を策定し、「前より前へ！長岡 人が育ち地域が輝く」を合言葉に、合併した各地域の特性を尊重し、地域資源を活用したまちづくりを展開している。

合併前の長岡市は交通の要衝にあり、首都圏から新潟、上越方面などへの分岐点として大きな役割を担っており、早くから上越新幹線や関越・北陸自動車道が整備され、充実した高速交通体系により首都圏からのアクセスが容易という交通環境にあり、人・もの・情報の集積や盛んな交流がみられる。

しかし、市町村合併による市域の拡大により、豊かな自然環境や地域固有の歴史・文化・伝統など、多様な個性を持つ地域で構成されたことから、市域全体の均衡ある発展と各地域の特色を活かしたまちづくりが求められている。

観光においても、「海の寺泊」をはじめ各地域において全国的に知名度の高い観光資源を有しながら、アクセス性や地域間の連携不足が指摘され、受入れ体制の整備や連携強化による魅力的な観光ルートの創出が求められている。

また、信濃川を横断する国道や県道の橋りょう部では、モータリゼーションの進展や都市の発展に伴う交通需要の増大により、慢性的な交通渋滞が発生していることから、信濃川橋りょう部の交通容量の拡大も求められている。

幹線道路の整備が求められている一方で、市民生活を支える生活道路も都市基盤であり、雪国の暮らしを支える生活道路は、必ずしも十分に整備がされていない状況にある。

市民にとって最も身近な生活道路には、十分な交通安全対策による歩行者空間の確保、特に通学路の安全対策が必要とされている。

長岡市は、平成16年の7.13水害や中越大震災により甚大な被害を受けたことから、これらの自然災害を教訓に「災害に強い道路整備」も推進している。

○課題

長岡市においては、広域的な都市間の交流・連携を促進するうえで、上越新幹線や関越・北陸自動車道の既存ストックである高速交通体系と有機的に結ばれた広域幹線道路網の構築、さらには各地域における多種多様な地域資源の連携を強化する幹線道路網を整備することが重要な課題となっている。

また、当市は広域市町村圏における都市機能の中心的な役割を担っていることから、都心地区及び信濃川橋りょう部における渋滞対策や、周辺市町村及び市内各地域からのアクセス性を向上させ、さらなる交流人口増加につながる道路網の整備が急務である。

市民の日常生活においては、少子高齢化が進展しているなか、高齢者や障害者などの交通弱者を含め誰もが安全に安心して通行できるバリアフリー化された歩行者空間の確保や、大規模自然災害を教訓に緊急車両が入れない狭あい道路の解消や災害時における複数の避難路の確保も課題となっている。

また、雪国という地域性から、一年を通じた道路機能の安全性確保も課題である。

②-2地域の目指すべき将来像

新潟県長岡市

将来像



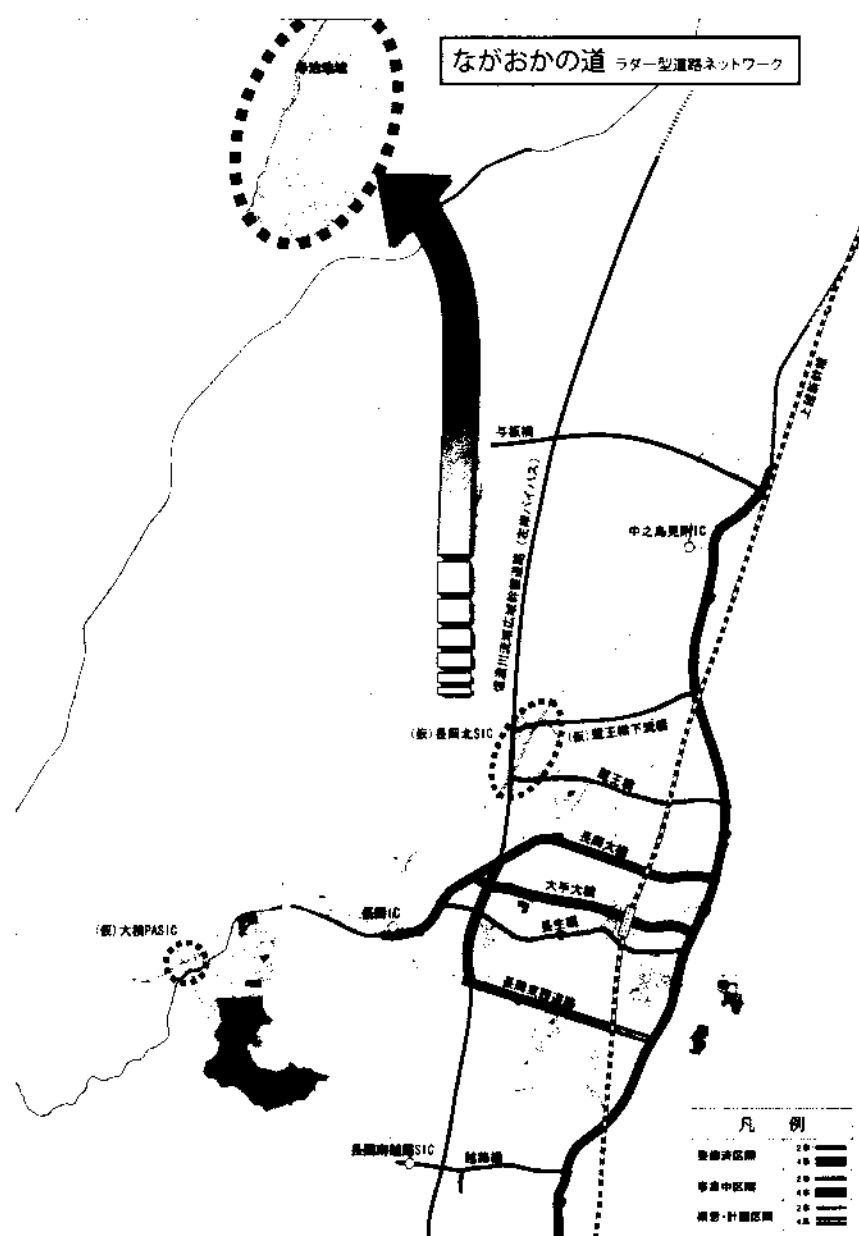
長岡市は、2度にわたる市町村合併を経て、広大な市域と多様な個性を持った新たな枠組みでまちづくりを進めており、各地域で培われたさまざまな地域資源を、共通の財産として連携させることで、多様な魅力を持ったまちづくりが可能となっている。

また、平成16年に見舞われた大災害から復興し、市民の安全な暮らしや活力ある地域社会の実現を目指した取組みを進めている。

このような状況の中、長岡市が目指している将来像を実現するためには、広域的な都市間の交流・連携が最も重要であり、道路の果たす役割が期待されている。

長岡市が目指している道路網は、既存の交通体系を活かし、市域を分断する信濃川東岸の国道8号、17号、西岸の関越・北陸自動車道、信濃川流域広域幹線道路(左岸バイパス)を南北方向の基幹軸とし、それを東西方向に結ぶ信濃川橋りょう(国道8号、長岡東西道路など)で構成される「長岡大環状道路」を中心とし、各地域や周辺市町村へ連絡する幹線道路からなる「ラダー型広域幹線道路ネットワーク」の構築を進めている。これにより、合併した各地域及び隣接市町村から、JR長岡駅周辺の中心市街地から千秋が原・占正寺地区にかけての都心地区または高速交通拠点などに30分以内でアクセスが可能となり、広域的な連携が図られ、市民生活や経済・産業活動、文化活動などが活発に行われ、『活力を創出する交流基盤の充実したまち』が実現する。

また、幹線道路網の整備による都心地区及び信濃川橋りょう部における渋滞の緩和は、通勤通学など日常生活の利便性向上につながり、バリアフリー化された歩行者空間を確保することで、『都市の活力と魅力にあふれ、安全・安心で住みよいまち』を実現するものである。



今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

新潟県長岡市

| ○重点事項                      | ○代表事例                                                               | ○期待する効果や評価等                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ○その他 |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 地域活力の向上                    | 既存高速道路ネットワークの有効活用<br>(長岡南越路スマートIC,長岡北スマートIC<br>(仮称)、大積PAスマートIC(仮称)) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・信濃川渡河部に集中する交通の分散およびアクセス向上</li> <li>・観光資源へのアクセス向上による周辺地域の活性化</li> <li>・大規模災害時における物流ネットワークの確保</li> <li>・リダンダンシー効果による事前通行規制区間の回避</li> <li>・救急医療搬送の効率化、定時制の確保による医療格差の是正</li> <li>・広範な市域に対応する高速幹線道路の実現</li> <li>・事業所におけるBCP支援</li> <li>・幹線道路の分担率向上による死傷事故率の低減</li> </ul> |      |
| 都市交通の快適性、利便性の向上            | 長岡東西道路                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・信濃川に架かる橋の交通混雑の緩和</li> <li>・渋滞の軽減による、CO2削減</li> <li>・開発拠点と交通拠点を結ぶことによる、開発拠点への支援</li> <li>・拠点都市交通ネットワークの整備による、近隣市町村との連携強化</li> <li>・信濃川によって分断されている、東西市街地の連絡性向上</li> <li>・救急医療搬送の効率化、定時制の確保による医療格差の是正</li> <li>・大規模災害時における物流ネットワークの確保</li> </ul>                       |      |
| 都市交通の快適性、利便性の向上<br>地域活力の向上 | 信濃川流域広域幹線道路(左岸バイパス)                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡広域都市圏における30分交通圏の形成</li> <li>・日常生活交流圏の拡大による産業、教育、文化、医療分野の相互交流の促進</li> <li>・信濃川橋りょう部への適正な交通分散による交通渋滞の解消</li> <li>・信濃川橋りょう部の交通量、混雑度の軽減、市街地内の平均速度の向上</li> </ul>                                                                                                       |      |

| ○重点事項                                | ○代表事例                                           | ○期待する効果や評価等                                                                                                                                                            | ○その他 |
|--------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| <p>少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成</p> | <p>バリアフリー歩行者空間ネットワーク<br/>(東幹線1号線、東幹線64号線ほか)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路利用者の立場での使いやすい歩道整備</li> <li>・高齢者や身体障害者等のだれにとっても快適な歩行空間整備</li> <li>・冬期バリアフリー(消雪施設)による、一年を通じて利用しやすい歩行空間の確保</li> </ul>           |      |
| <p>都市交通の快適性、利便性の向上</p>               | <p>(都) 横山亀貝線</p>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道断面における交通渋滞の緩和</li> <li>・鉄道によって分断されている、市街地の連絡性向上</li> <li>・拠点都市交通ネットワークの整備による、近隣市町村との連携強化</li> <li>・渋滞の軽減による、CO2削減</li> </ul> |      |